

オリーブの会通信

2018年6月1日

発行：特定非営利活動法人KHJ香川県オリーブの会
〒760-0043 高松市今新町4番地20
連絡先 TEL 087-802-2568
<http://khj-olve.com/>



2018年度オリーブの会総会が開かれました。

4月29日リハセンターにて2018年度総会が開かれました。2017年度事業報告・会計報告、2018年度事業計画・予算計画そして新しい理事を選出して無事閉会しました。会員参加者は委任状を含め36名でした。

来賓として山本博参院議員、都築県議、春田市議、県障害福祉課土手副課長、高松市保健センターの池知保健師さんが参加されました。

山本議員から現在国会で議論している「ひきこもり施策」について詳しい説明がありました。ひきこもり施策は生活困窮者自立支援事業の中で展開され、市町村のひきこもり支援の人材養成、サポーター派遣事業の拡大、居場所等の設置に対する予算がされていることが説明されました。

第192回月例会ご案内

日 時	2018年6月24日（日）午前10時 かがわ総合リハビリセンター 一西北駐車場に集合して乗り合わせてレオマに行きます。
場 所	『ひきこもり当事者の働いている職場見学会』 株式会社サニーサイドが請け負っているレオマワールドの清掃部門の現場見学 見学時間は午前11時～12時30分

内 容	<p>☆ 一部 11:00～12:30 サニーサイドの職場見学(レオマの森) 実際に働いているところを見学します。</p> <p>☆二部 12:30～昼食 (レオマの森食堂)</p> <p>15:00 終了 16:00 リハセンターに帰り解散</p>
参加費	会員1家族：1,000円 会員以外：1,500円

第193回月例会ご案内

日 時	2018年7月22日(日) 13:30～16:30 (受付:13:00～)
場 所	<p>かがわ総合リハビリテーションセンター 2階 AV教室・第1研修室 〒761-8057 高松市田村町1114番地 Tel:087-867-7686</p>
内 容	<p>☆第1部 13:30～ 会からの報告 『シンポジウム“地域から”ひきこもり長期高年齢化を考える』 平成30年3月18日(東京) シンポジスト 境 泉洋氏、川北 稔氏など</p> <p>15:00～15:15 休憩</p> <p>☆第二部 15:15～16:30 グループ別話し合い</p>
参加費	会員1家族：1,000円 会員以外：1,500円

第 189 回月例会（3 月 25 日）の概要

講演 『ひきこもりと精神医療』

講師 高知県立精神保健福祉センター 所長 山崎 正雄氏

概要

「ひきこもり」のガイドラインの説明

ひきこもりは大きく分けると 3 つの種類に分けられる。

第 1 群 統合失調症・気分障害・不安障害

統合失調症：被害年慮、被害妄想がある。幻聴がある。

他人や外界に対して、自分が脅威にさらされるといった病的な不安からひきこもりがちになる。

神経症性障害、ストレス関連障害

社交不安障害：1 対 1 で会話できない。

目をあわせられない。

他人と一緒に食事できない。

対人面の不安緊張が強い障害

脅迫性障害：強迫観念、

急迫行為（確認を繰り返したり、手洗いなど同じ行為を繰り返したりする反復的行動）

○統合失調症などの精神疾患の場合は、基本的に精神医療を受診して、薬物療法による治療必要であれば障害福祉サービス利用をする。

第 2 群 パーソナリティ障害

自己愛性パーソナリティ障害：

自己の重要性に関する誇大な感覚

自分が「特別」であり、独特であり他の特別な又は地位の高い人たちにしか理解されない。または関係があるべきだ、と信じている。

特別意識

共感の欠如

尊大で傲慢な行動、または態度

第 3 群 広汎性発達障害 自閉症スペクトラム

社会的コミュニケーションの障害：対人的総合反応の障害

話していても、話がかみ合わない

自分勝手なことをしゃべる

何回説明しても、説明が通りにくい。理解できない。

限定された反復的な行動：同一性への固執

「こだわり」、執着

人より「モノ」に感心がある。

人との相互的な関わりが困難（友達が作りにくい）

感覚敏感： 小さな音や声が異常によく聞こえてしまう。（ざわつきが苦手）
モノが見えすぎて不快、視線が気になる。
ある種の音、におい、触覚を不快に感じる。

- 発達障害の人はもともと対人関係の苦手さ、コミュニケーションの苦手さ、こだわり・感覚の敏感さを持っている。このことで抑うつや二次障害が出てくる。薬物治療は対症療法で行うこと。
- 診断だけがあっても、病名が一人歩きすることは避けること。診断は手がかりであり本人の支援が組み立てられることが重要
- 医療機関・相談機関は
 - ①「見立て」をする。
 - ②本人・家族の抱えてきた苦しき・つらさを理解し、受け止める。
 - ③「支援」出来ること、出来ないことを伝える。（⇒家族 ⇒ 本人）
 - ④一緒に考えていく（本人の苦しみを肩代わりすることではなく）
 - ⑤本人・家族が「自分」の生き方を見出していくための支援
- 「病気」「障害」を直すことにとらわれるのではなく、その人の持っている「いいところ」「特性」を生かすことを支援する。
- 本人のありのままを大切にした支援を行い、本人の長所・可能性・好きなこと・希望を見つけて伸ばすことが必要。
- 発達障害をもつ子どもは思春期につまづきやすい。「自分」とは何か？「他人」とは何か？このような思春期から青春期の課題を乗り越えるのがとても困難になる。

【高松市ひきこもり相談窓口】から

今年度から代表理事泉善法が総括責任者になりました。

相談窓口も3年目を迎えますが昨年の実績は150件以上に及びます。どこに相談してよいかわからなかったが、身近に相談するところが出来てオリーブの会の相談窓口も一役は果たしているのではないかと思います。しかし、相談窓口での問題点も明らかになってきています。①サポーターが輪番でありケースの内容が共有されない。②困難ケースの対応の仕方、③新規ケースの様子、など相談窓口の充実を図るために月1回第一水曜日午後2時30分～3時30分の相談窓口担当者定例会議を持つことになりました。さっそく5月9日に14時30分から高松市保健センターで開かれ、平日にもかかわらず11名のサポーターが参加しました。

お知らせコーナー

その1 2018年4月の人事異動で関係する行政の担当者が変わりました。(新任者を以下に記載)

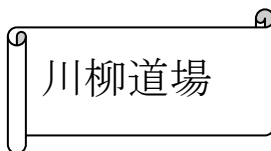
香川県障害福祉課	久保課長、土手副課長 須藤主任 (保健師)
ひきこもり地域支援センター	岡崎所長、渡邊主任技師 (臨床心理士)
高松市保健センター	副センター長 土橋典章 担当 池知保健師

その2

香川県は子ども・若者育成推進法の担当部署が男女参画・県民活動課から独立して健康福祉部子ども政策推進局子ども政策課が新設されました。今後は、ニート・ひきこもり・など困難を抱えた子ども・若者の受け皿は「こども政策課」が担当になります。

その3

『子ども・若者の居場所づくりに取り組む団体を募集』が新聞等に報道されました。居場所作りに対して年間30万~40万円の補助金が交付されるものです。早速、こども政策課に問い合わせたところ、応募資格に「初年度に県内で居場所を開設すること」という条件がありポパイの居場所活動は既にあるので対象外とのこと。どうも納得のいかない話です。



ばったりと

トイレで出会うは

一年目

なんとかなる

なんとかする

なるようになる

△も □も

○も あるがまま

啐啄を

学びをおして

親の会

【2018年6～7月以降の各会等の予定】

(相談窓口・傾聴サロン)

内 容	月	日	曜	時 間	担 当
ひきこもり相談窓口 (来所相談も可) ※先ずは ☎ 087-802-2567 をお待ちしております － 第5土曜日は全て休みです －	6	2、9、 16、23	土	10:00～16:00	泉・川井ほか
	7	7、14 21、28	土	10:00～16:00	泉・川井ほか
ひきこもり当事者傾聴サロン ※連絡先：☎ 087-802-2567 － 第1・3土曜日に行います －	6	2、16	土	13:00～16:00	サポーター登 録者・平野
	7	7、21	土	13:00～16:00	サポーター登 録者・平野

(理事会・運営委員会等)

内 容	月	日	曜	時 間	摘 要
第3回運営委員会、	6	16	土	13:30～16:30	
第4回運営委員会	7	21	土	13:30～16:30	
第5回運営委員会	8	18	土	13:30～16:30	
第6回運営委員会	9	15	土	13:30～16:30	

*ポパイの会(居場所活動) 予定は、別途印刷の同封パンフをご活用ください